



明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

# KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail: gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 149

2022

2.9

## 「第4回みんなでラボろう」が開催されました 逆転の発想 算数科での新たな授業づくりへの挑戦

千葉県柏市立土小学校の未来を見すえた学びづくりを話題提供していただきました。

学校が新しくなったから**授業**も変えていこう

動画を  
使って

GIGA開き 初めてログイン

学校創立123年目を迎えた土小学校はこの春に2年にわたるニューアル工事が終わり新しくなった環境で、「授業も変えていこう」とGIGA元年のスタートを切られました。その中で千葉県の授業動画を普段の授業でも活用する試みもスタートされたようです。

今年は学びを**止めない**

緊急事態宣言中の9月  
午前5時間+給食  
そして・・・下校オンライン30分

学年体制として学級担任制から学年担任制・教科担任制を導入する中で、「こんなことをしたいのだけど」「それならこんな方法もあるよ」とアイデアを出し合い、具体化する対話も活性化してきたそうです。9月には第5波の中で、放課後担任とオンラインでつながる試みが先生方の中から始まってきたそうです。子どもも教師も共にスキルアップ！

ICTを活用した授業改善 一人で2クラス

1組と2組の児童65人に対して  
オンラインで授業を行う。  
学年担任制で算数と国語を互いに  
専科として分担する。  
先生は・・・

先生の画面をmeetで共有し、先生  
は授業動画を再生しながら進める。  
全体に質問をしてオンラインで答える。  
動画に合わせたプリントに記入する

6年生の担任は国語と算数を交代しながら担当し、ICTを活用し、一人で2クラス同時に授業を行う授業改善の試みを2学期後半から始められたそうです。その行動力にびっくりです。イヤホンをつけるとスイッチが入り集中力が高まるなどやってみたらわかる子どもの変化が見えてきたそうです。

ICTを活用した授業改善 一人で2クラス

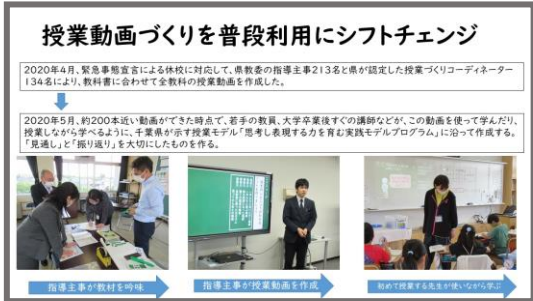
もう一人の先生は、空き時間となる。  
今までは、担任以外の先生が授業を持った場合のみ  
み空き時間だった。  
2クラス同時だと空き時間が毎日確保できる。

理解が深まらない子供に対しては  
個別に指導をする。

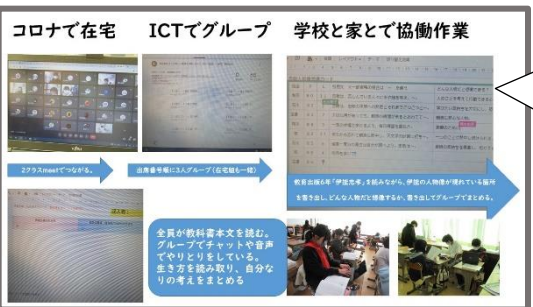
千葉県の授業動画を Meet で共有し、全体で進むという一斉形式の段階で学び方を押さえてから、個々が授業動画を見て進む自由進度形式の取組も始められているそうです。何回も同じところを見直す子どもや、わかるところは倍速でという学習スタイルはいろいろですが、友だち同士での教え合いだけでなく、先生への質問も増えてきたそうです。



こうした取組を支えているのが「チーてれスタディーネット」です。スタートは緊急事態宣言による休校に対応して、2020年4月県教委指導主事213名と県が認定した授業づくりコーディネーター134名によって全採用教科書に合わせて全教科の授業動画作成が始まったそうです。そして200本近い動画ができた時点で若手の教員、初任教員等がこの動画を使って学んだり、授業をしながら学べるようにとコンセプトの変更がおこなわれたそうです。千葉県の考える授業モデル「思考し表現する力を育む実践モデルプログラム」に沿って「見通し」と「振り返り」を大切にした授業動画とコンセプトのはっきりした授業動画がつけられるようになったそうです。



こうした授業動画を活用した授業にもバリエーションがあるようです。教師が授業動画を Meet で共有してすすめる、一斉授業の形。個別に授業動画を再生しながらすすめる授業の形。こうした授業の形を組み合わせながら授業をすすめられているようです。もちろん端末は毎日持ち帰りです。



コロナで自宅待機になったとしても、普段通りの一人の教員による2クラス同時の授業に自宅から普段どおりに入ってくるそうです。課題解決に向け、教室と自宅と離れていても協働作業が自然に行われるそうです。



お話を聞きながら、江戸から明治への大きな時代変化である維新よりも大きな変化の真っ只中に私たちはいるのではと感じました。また、先生の夢として学級の壁、教科の壁、学年の壁、学校の壁の4つの壁を壊していきたいと語られました。先日ある先生からのメールで「ICTは様々な壁を溶かしだす」という表現を目にしましたが、土小学校ではICTがもう壁を溶かし始めているのではと感じさせられるような話題提供でした。

お話を聞く中で、土小学校の子どもたちに学び方が身に付く環境をつくろうとされているということを感じました。それは、「教育を新しくしていこう」という取組みのベースに「前提を問い直してみる」という姿勢が共有され、「未来につながる新しい教育」を想像し、創造していくチャレンジの中で、「個別最適な学び」の仕組みが見える形にという学校のビジョンなんだろうなと感じました。

寄せられた感想より一部抜粋

◎教員の感想より

梅津先生の話は、共感できることばかりでした。

特に、4つの壁については、僕自身も来年度に向けて、とっばらいたいと考えているところでした。他にも、OJT、カリマネ、個別最適化などなど、来年度、研究を進めていく上で、最近、頭でぐるぐる回っている文言だらけでした。

複数学級同時授業による空き時間の創出にも魅力を感じました。働き方改革が叫ばれて久しい現在、まさに学校現場の多忙化を解消すべく一手としての可能性を感じました。私が気になったのは、千葉県のように作成された動画視聴の際、現場に同居する教員の役割です。理解に苦しむ児童に関わるという個別最適化の例はお示しくさせていただきました。動画は児童によって、繰り返し視聴されるという話もお聞きしました。多くの児童が動画を視聴している際、先生方は子どもたちの様子を見とる役割でしょうか。

また、私自身悩んでいる部分でもあります。オンラインのメリットは活用しつつ、児童相互のつながりをどのように保障されるのかも気になりました。在宅学習でのオンラインでは、ブレイクアウトルームや一斉交流、提出物の共有等かと考えます。昨日拝見した中には、教室にしながらオンラインで学習している場面もあったかと思えます。

ICTの世界と現実世界、ハイブリットで学習・交流・学び合いが展開されているのかと予想しました。試行錯誤を重ねながら、私も子どもたちや同僚たちと実践を重ねていきたいです。

教えようとせず、きっかけ作りというご意見にも納得できる部分があります。これからの未来を生き抜く子どもたちには、知識・理解以上に学び方を学ばせる必要には同感です。ただ、教える場面もあると思います。

教えるだけの教育は、子どもたちの未来に対して無責任だと考えています。

千葉県教委作成の動画を個別に観ながら教科担任で2クラス同時に学習を進めるというスタイルが斬新で目から鱗が落ちました。「オンラインだから手を挙げやすい」や「分からない所を何度も聞ける」などの子どもの感想に衝撃が走りました！これまでの私の古い固定観念にイノベーションが起こり始めました。こういうプラスの声があるだけに、やる価値は十分にあるし、やってみるべきだと思いました。それを常態化していくということではなく、まずはやってみることで気づくメリットやデメリットを見直し、明石流に改良していくことでよりよいものが生み出されていくのだと思います。

これまで私たちが行ってきた取組がよくないとは全く思いません。よき文化もたくさんあるはず。時代の波に乗りながら、前例踏襲すべきものと新たに生み出していくものを織り交ぜ、教育をブレンドしていくそんな時期に来ているのだと思いました。

◎一般市民の感想より

梅津校長先生の話の中で今まで大人が作ってきた 4 つの壁を壊せる予感が伝わってきたことが印象的でした。特に学年の壁は既に壊されていて、先生の働き方改革までつながっている実践の様子は” やれば出来るんだ” と思いました。

私のまちの〇小では「目ざす子ども像」と「目標達成へのアプローチ」は示されていますが、そのアプローチ（到達）へのプロセスを示す具体的なカリキュラムマップまではオープンする（学校運営協議会などで）に至っていません。

梅津校長先生もカリマネの意識を常に持つようにと各先生方に言われているようでしたので、明石市内の各小学校でも同様な状況にあり実際には難しい壁なんだろうなあと感じました。（もちろん松ヶ丘小さんはそこをすでにクリアされているので立派だと思います）

学校と同様に地域にもそれぞれ壁がありますのでそれらを壊していくことが地域の課題であると感じています。

感想、ありがとうございました。変な言い方ですが、土小学校からの話題提供を聞かれて混乱される先生、受け入れにくい先生、わかるけど私たちには無理かなと思われる先生等色々だと思います。梅津先生も維新という言葉が使われましたが、このコロナ禍で一気に日本の抱えている課題が浮き彫りになり、教育にも 150 年間変わらなかった教育の在り方が問われるようになり、教育の世界にも変化の波が押し寄せています。

将来も残る仕事の中に教師という仕事も含まれていますが、その仕事とは今私たちが前提として考えている仕事なののでしょうか。その前提を問い直す作業と、問い直しをしながら未来を生きる子どもたちの学びを創っていく作業が必要なのではと考えます。今回のみんなでラボろうに参加された先生方は、そうした混乱をしながらも、前提の問い直しを始められているのではと感想を読ませていただきながら感じました。そしてなによりも、市民の方の感想を読みながら、「なぜコミュニティ・スクールなのか」という本質の問い直しは常におこない、更新していく必要性を感じ、身が引き締まる感じです。地域の方がこれだけ学校のことを見ていただいているということに感謝です。

「第 5 回みんなでラボろう」を現在計画中です。詳細については後日お知らせさせていただきます。

（文責：北本）